ユニット名	災害時人口動態データ分析に基づく地域防災・減災支援ユニット
代表者	総合理工学部 知能情報デザイン学科　楊 振宇
達成に資するSDGs目標	11　住み続けられるまちづくりを 13　気候変動に具体的な対策を 9　産業と技術革新の基盤をつくろう
活動の意義、成果及び波及効果	本ユニットは、豪雪等の自然災害時における人口動態データの分析を通じて、地域の防災・減災および持続可能なまちづくりに貢献することを目的とする。特に、災害時における人口移動・滞留の変化を把握し、住民行動の理解や避難・移動支援に資する知見の創出を目指す。 代表者はこれまで、2018年福井豪雪を対象として、積雪深や気象条件と人口変化との関係に関する分析を進めてきた。本ユニットでは、当該研究を先行事例として位置づけ、災害時人口動態分析の方法論を発展させるとともに、将来的には島根県を含む山陰地域の豪雪・水害・台風等の災害対応にも応用可能な知見の蓄積を目指す。 本活動は、SDG 11、SDG 13、SDG 9に資するものであり、教育・研究活動への展開や将来的な地域防災関係者との連携を通じて、本学の地域貢献および機能強化にも寄与することを目指す。